

焦必方
编著
经济日语读本

J I N G J I

R I Y U

D U B E N

经济日语读本

焦必方
编著

上海财经大学出版社

H369.4:F/301

经济日语读本

焦必方 编著

上海财经大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

经济日语读本/焦必方编著. —上海: 上海财经大学出版社,
2003. 8

ISBN 7-81049-939-4/F·816

I. 经... II. 焦... III. 日语-阅读教学-高等学校-教学
参考资料 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 048499 号

□ 责任编辑 王 平

□ 封面设计 周卫民

JINGJI RIYU DUBEN

经济日语读本

焦必方 编著

上海财经大学出版社出版发行
(上海市武东路 321 号乙 邮编 200434)

网 址: <http://www.sufep.com>

电子邮箱: webmaster@sufep.com

全国新华书店经销

上海译文印刷厂印刷

上海市印刷七厂一分厂装订

2003 年 8 月第 1 版 2003 年 8 月第 1 次印刷

787×1092mm 1/16 20.25 印张 412 千字

印数: 0 001 3 000 定价: 35.00 元

前 言

本人在复旦大学经济学院从事教学与研究工作,同时也是一名日语的爱好者与使用者,迄今为止已发表《危机前夕的美国农业》(《世界经济情况》1983. 9)、《中国农业与农民的前途》(《编译参考》1991. 2)、《九十年代世界经济的回顾》(《日本研究集林》2000. 1)等译文 20 余篇,出版《图解生产管理》(文汇出版社 2002. 1)等译著 2 本。近年来,作为我校日本研究中心的兼职研究员,本人还多次参加中日间国际合作研究项目的研究,曾主编出版《战后日本农村经济发展研究》(上海财经大学出版社 1999. 12)等专著 3 本,并单独与合作发表《80 年代后期以来日本中小企业的新动向》(《日本学刊》1998. 3)等与日本经济问题有关的论文 20 余篇。

回首文化大革命时期作为知识青年下放于崇明农场,随上海人民广播电台外语讲座初学日语的情景及今天运用日语所取得的一些成果,总想为日语学习者做点什么,于是,作为经济学与日语的结晶,产生了这一读本。

读本所选课文基本上均选自日文原版经济文选资料,涉及理论经济学、应用经济学及经济管理的许多方面,内容仅作少量技术性修正。为节约篇幅,凡与汉语表达无异议的日语汉语词汇仅注了假名,同时,为便于学习,课文中涉及的日语词汇按词汇所在课文的页码按序列出。另外,为便于读者对照学习,读本最后附有每篇课文的参考译文。

本读本可作为高等院校日语专业对经济感兴趣的学生的学习教材,也可为已具有一定日语基础的经济理论与实际工作者进一步学习所用。同时,本读本也有利于读者对日本经济的了解。

本读本在编写过程中主要参考了下列书籍及有关文献资料,在此谨向有关作者、出版社致谢。

这些书籍及有关文献资料是:

(日) 岩田規久男著:『入門経済学』,東洋経済新報社 1987 年初版,1990 年第 5 刷発行。

(日) 丸淳子著:『証券市場』,新世社 1990 年初版,1995 年第 5 刷発行。

(日) 藪下史郎等訳,米国 Joseph E. Stiglitz 著:『入門経済学』,東洋経済新報社 1999 年 4 月第 1 刷発行。

(日) 藪下史郎等訳,米国 Joseph E. Stiglitz 著:『ミクロ経済学』,東洋経済新報社 1995 年 1 月発行。

(日) 長谷田彰彦著:『完全体系 経済学事典』,富士書店 1979 年第 2 版発行。

- (日) 下谷政弘著:『日本の系列と企業グループ』,有斐閣 1993 年初版発行。
- (日) 東洋経済新報社編:『全図解 日本の企業系列』,東洋経済新報社 1998 年 2 月第 1 刷発行。
- (日) 保田芳昭,加藤義忠編:『現代流通論入門』,有斐閣 1992 年 1 月初版第 9 刷発行。
- (日) 栗谷啓三著:『保険』,税務経理協会 1998 年 4 三訂版 2 刷発行。
- (中) 焦必方著:『在日外国人労働者問題に関する研究』,復旦大学日本研究センター第八回国際シンポジウム論文,1998 年 4 月発表。
- (日) 長島義貴著:『やさしい商業簿記』,日東書院株式会社 1981 年 9 月発行。
- (日) 東京証券取引所調査部編:『東京証券取引所』,東京証券取引所 1994 年 11 月発行。
- (日) 伊東光晴著:『90 年代の世界経済を考える』,復旦大学日本研究センター創立十周年記念大会の記念講演,2000 年 4 月 29 日発表。
- (日) 矢口芳生著:『地球は世界を養えるのか』,集英社刊,1998 年 6 月 30 日第 1 刷発行。
- (日) 田中一穂編:『図説 日本の税制(平成 11 年度版)』,財經詳報社 1999 年 6 月発行。
- (日) 高梨昌編:『変わる日本型雇用』,日本経済新聞社 1994 年 4 月 1 版発行。
- (日) 田中一成著:『図解 生産管理』,日本実業出版社 1999 年 2 月発行。
- (日) 島田とみ子著:『年金入門』,岩波書店株式会社 1991 年 10 月 25 日第 4 刷発行。
- (日) 伊豆宏著:『日本の不動産市場(理論と予測)』,東洋経済新報社 1999 年 4 月 16 日第 3 刷発行。
- (日) 宮本真成著:『年俸制の実際』,日本経済新聞社 1997 年 3 月 4 日初版発行。
- (日) 金森久雄,香西泰編:『日本経済読本』,東洋経済新報社 1990 年 6 月 12 日第 11 版第 3 刷発行。
- (日) 緒方知行著:『セブン-イレブン・イトーヨーカ堂の流通情報革命』,株式会社 TBS フリタニカ 1995 年 10 月 30 日初版第 8 刷発行。
- (日) 日本放送協会(NHK)編:『やさしい日本語』,1980 年 4 月- 1982 年 3 月。
- (日) 日本経済新聞社編:『経済新語辞典 1994 年版』,日本経済新聞社 1993 年初版発行。
- (日) 神戸大学日本経済研究会編:『ポケット日本経済辞典』,有斐閣 1990 年 10 月初版第 11 刷発行。
- (日) 三省堂編修所編:『コンサイス 外来語辞典』,三省堂 1992 年 1 月第 4 版第 17 刷発行。
- (日) 日本国仙台市中央卸売市場は提供した資料。
- (中) 大连外国语学院编:《新日汉辞典》,辽宁人民出版社 1979 年 10 月第 1 版。

(中) 李嗣明主编:《日英汉新经济辞典》,中国展望出版社 1988 年 9 月第 1 版。

(中)《日语外来语新辞典》编辑组编:《日语外来语新辞典》,商务印书馆 1973 年 10 月第 1 版。

(中)《日语汉字读音手册》编辑小组编:《日语汉字读音手册》,商务印书馆 1973 年 12 月第 1 版。

本读本 是 2001 年 2 月所编讲义的修订本,但受本人日语及经济学学识水平的限制,在编写上定存在不妥之处,希读者提出宝贵意见,以便完善与改进。本读本的出版得到了上海财经大学出版社的支持,在此谨表示最诚挚的谢意。

今年恰逢中日邦交正常化 30 周年,本读本的编写也寄希望于中日经济交往的进一步发展。

复旦大学经济学院 焦必方
2002 年 12 月

目 录

前言	1
----------	---

第一部分 原文

第 1 課 経済学とは何か.....	3
第 2 課 経済学の二つの分野.....	9
第 3 課 証券	14
第 4 課 証券の流動化——証券流通市場の機能	24
第 5 課 保険の仕組みと分類	28
第 6 課 家計向けの火災保険	35
第 7 課 自動車保険	41
第 8 課 在庫の重点管理——ABC 管理	44
第 9 課 人的資本と教育	51
第 10 課 変貌を遂げる日本六大企業集団.....	61
第 11 課 株券上場審査基準.....	72
第 12 課 ハイテク化とグローバル化.....	78
第 13 課 在日外国人労働者問題.....	87
第 14 課 アメリカの世界経済戦略拠点.....	98
第 15 課 労働市場流動化と能力形成	105
第 16 課 人びとに幸福をもたらした計画出産事業	111
第 17 課 情報化社会と商品情報システム	118
第 18 課 持続可能な農業のために	128
第 19 課 酒税とたばこ税	133
第 20 課 需要と供給——価格の役割	138
第 21 課 貸借対照表と損益計算書	151

第 22 課	仙台市中央卸売市場	158
第 23 課	不動産市場の土地取引の実態	165
第 24 課	日本的賃金制度の特徴	173
第 25 課	日本の年金の歩み	182
第 26 課	高度成長と地域経済	188
第 27 課	環境経済学の考え方	194
第 28 課	セブン—イレブンの商品取引メカニズム	202

第二部分 参考译文

第 1 課	何为经济学	209
第 2 課	经济学的两大领域	212
第 3 課	证券	215
第 4 課	证券的流动——证券流通市场的功能	220
第 5 課	保险的结构和分类	222
第 6 課	家庭火灾保险	225
第 7 課	汽车保险	229
第 8 課	库存的重点管理——ABC 管理	231
第 9 課	人力资本与教育	235
第 10 課	面貌一新的日本六大企业集团	240
第 11 課	股票上市的审查标准	244
第 12 課	高科技化和全球化	247
第 13 課	在日外籍劳动者问题	251
第 14 課	美国的世界经济战略据点	257
第 15 課	劳动力市场的流动性和劳动者能力的形成	260
第 16 課	为民造福的计划生育事业	263
第 17 課	信息化社会 and 商品信息系统	266
第 18 課	农业的可持续发展	270
第 19 課	酒税和烟税	272
第 20 課	需求和供给——价格的作用	274
第 21 課	资产负债表和损益表	281
第 22 課	仙台市中央批发市场	285
第 23 課	房地产市场土地交易的实际情况	288

第 24 课	日本工资制度的特征	293
第 25 课	日本年金的发展历程	298
第 26 课	高速增长与区域经济	301
第 27 课	环境经济学的观点	304
第 28 课	“7-11”连锁超市的商品交易机制	308
附录	假名与罗马字拼音图	310

第一部分 原文

第 1 課

1

経済学とは何か

経済学においては、個人や企業、政府、またわれわれの社会にある他の組織がどのように選択を行うか、またその選択が社会の資源の用い方をどのように決めているか、について学ぶ。経済学では、希少性が重要な役割を演じている。資源は希少なものであるがゆえに、選択が重要な問題となる。欲しいものが何でもっており、自分の辞書に希少性という言葉がないように見える大富豪にとってさえ、時間は一つ資源なのである。どんな大金持ちでも、毎日どの高価な玩具に時間を費やすべきかは決めなければならない。時間を考慮に入れば、希少性はあらゆる人々にとって現実的な問題となる。

選択をしなければならないという問題は、各個人と同様に、経済全体にもあてはまる。土地、労働、機械、石油および他の天然資源などの経済の限られた資源をどのように用いるかという決定が、個人、家計、企業または政府によって、とにかくなされている。なぜある時には穀物生産に用いられた土地が、他の時には自動車工場のために用いられるのか。数十年の間に、馬車製造から自動車車体製造へと、資源はどのように取って代わられたのか。また鍛冶屋は自動車機械工にどのように取って代わられたのか。多数の消費者、労働者、投資家、経営者または政府の役人によるあらゆる決定は、社会にとって利用可能な希少資源の使用方法を決定するために、互いにどのように影響しあうのだろうか。経済学では、このような問題を、経済がどのように機能するかにかんする以下の四つの基本問題としてまとめている。

1. 何がどれだけ生産されるのか

過去 50 年間に、アメリカにおける消費には重大な変化があった。たとえば、1950 年には総個人消費の 3.5% にすぎなかった医療支出は、1995 年には消費の 7 分の 1 以上を占めるようになった。このような変化はどのように説明できるだろうか。経済は、VTR のような新製品や銀行の CD (現金自動支払い機) のような新サービスを生みだしてきたが、何がこのよ

うな技術革新を引き起こしたのだろうか。全体的な生産水準もまた年々変化し、それとともにしばしば雇用や失業の大きな変化が起きてきた。経済学では、このような変化をどのように説明できるのだろうか。

アメリカでは、何がどれだけ生産されるかという問題は、主として民間部門の企業と消費者の間の相互作用により解決されると答えられるが、政府の役割も見すごすことはできない。また価格は、どのような財が生産されるかを決定するうえで重要な役割を果たす。ある財の価格が上昇すれば、企業はその財をもっと多く生産し利益をあげようとする。したがって、経済学が関心を持ってきた中心的問題は、なぜある財が他の財よりも高価なのか、そしてある財の価格が上昇したり下落したりするのはなぜか、ということである。

2. これらの財はどのように生産されるのか

ある財を生産するにはさまざまな方法がある。織物は手織機でつくることができるが、近代的な機械を利用すれば、より少ない労働者でより多くの布地を生産できるようになる。最新式のコンピュータ化された機械では、一人の労働者がそれ以前に可能であったよりもはるかに多くの機械を監視できるようになった。よりよい機械は、一般的にはそれを製造する費用は高くなるが、必要とする労働力は少なくてすむ。進歩した技術と労働集約的な技術では、どちらが利用されるだろうか。かつてヘンリー・フォードは、流れ作業という自動車生産のための新方法を導入したが、最近の自動車メーカーはロボットを使用しつつある。このように技術がどれくらい速く変化するのは、何が決定するのだろうか。

アメリカでは、財をどのように生産するかという問題についても、政府の手助けを受けながら企業が答えを出している。政府は、規制を定めたり法律を制定して、企業組織全体から、さらには企業が労働者や顧客とか代わり合う方法に至るまで、あらゆることに影響を及ぼすのである。

3. これらの財は、だれのために生産されるのか

アメリカでは、高所得を得ている人が生産された財をより多く消費することができる。しかしこの答えは、問題解決を一步後退させただけである。いったい何が所得や賃金の差を決めているだろうか。運、教育、相続、貯蓄そして経験や勤勉さは、そのためにはどのような役割を果たしているのだろうか。これらの問題に答えるのは難しいが、いまのところは、以下の答えで十分である。すなわち、アメリカでは、所得は主として民間の企業と家計の相互作用によって決定されるが、政府もまた、所得再分配をもたらす計画や税金を介して大きな役割を果たしている。

4. だれが経済的決定を行うか、またどのような過程を経て行うか

かつてのソ連のように中央集権的計画経済では、政府が事実上、経済活動のあらゆる側面に対して責任を持っている。すなわち、政府がこれまでに論じた三つの基本問題のすべてに答えているのである。中央経済計画当局は、何がどのような方法で生産されるのか、まただれがそれを消費するのかを、官僚を通じて指令するのである。その対極には、主として生産者とその顧客が自由に交換を行うことによって、何が、どのように、かつだれのために生産されるのかを決定する経済が存在している。こうした経済に近いアメリカは、混合経済と呼ばれている。すなわち、公的(政府)部門と民間部門の意思決定が混在している。一定の限度内で、生産者はつくりたいものを、彼らにとって適切と思われる方法を用いて作り、そして生産物は、消費者の所得に応じて分配される。

経済学では、一つの経済について検討するとき、経済的決定がどの程度政府によってなされ、またどの程度私的個人によってなされているかを知ることが重要な課題になる。アメリカ国民は、どの自動車を購入するかについて大部分は自分で決定するが、政府はその決定にさまざまな方法で介入してきた。すなわち、アメリカ政府は、日本車の輸入に影響を及ぼし、自動車の排出する汚染物質を制限し、また燃費や自動車の安全性を高めるための行動をとってきた。

関連する問題としては、個人によってなされる経済的決定は、彼ら自らの利益のためになされているのか、または雇用主である企業や政府機関の利益のためになされているのか、とことがある。これは重要な違いをもたらす。人々は、自分自身で独立に行動でき、自分の利益になるように決定を行っている、とわれわれは考えがちである。しかし、個人が組織に代わって行動するときには、利害の対立が起きるかもしれない。会社や政府をあたかも一人の個人であるかのように見る人もいる。しかし、組織は当然多数の個人から成っており、その組織内の個々人の利益は必ずしも互いに一致するわけではないし、また組織自体の利益とも一致しない、ということを経済学者は指摘する。これは、組織における選択を分析するうえでは、特有の問題があるということである。

コラム

混合経済——私的企業によって主要な経済活動が営まれるのが資本主義体制の本来の姿であるが、現在では国家や公共団体などの経済活動が拡大し、私的部門と公的部門が併存する体制となっていることをいう。歴史的に見ると、アダム・スミスの安価な政府にみられるように、産業資本の興隆期にあつては、政府の介入は必要最小限でなければならないとき

れていたが、今日では経済の安定と成長、及び国民の福祉の向上について政府が全面的に責任を負わされている。それは自由競争の下での資本の利潤追求によっては達成できなくなった経済の最大の効率と万人の幸福にたいして、資本主義を修正することによって確保しようとする試みである。

漢字の読み方

P.3

経済学(けいぎいがく)、個人(こじん)、企業(きぎょう)、政府(せいふ)、社会(しゃかい)、組織(そしき)、資源(しげん)、希少性(きしょうせい)、重要(じゅうよう)、問題(もんだい)、辞書(じしょ)、大富豪(だいふごう)、時間(じかん)、毎日(まいにち)、高価(こうか)、玩具(おもちゃ)、考慮(こうりょ)、人々(ひとびと)、現実(げんじつ)、同様(どうよう)、全体(ぜんたい)、土地(とち)、労働(ろうどう)、機械(きかい)、石油(せきゆ)、天然(てんねん)、決定(けつてい)、家計(かけい)、穀物(こくもつ)、生産(せいさん)、自動車(じどうしゃ)、工場(こうじょう)、数十年(すうじゅうねん)、馬車(ばしゃ)、製造(せいぞう)、車体(しゃたい)、多数(たすう)、消費者(しょうひしゃ)、投資家(とうしか)、経営(けいえい)、利用(りよう)、可能(かのう)、使用(しよう)、方法(ほうほう)、影響(えいきょう)、機能(きのう)、基本(きほん)、過去(かこ)、年間(ねんかん)、重大(じゅうだい)、変化(へんか)、医療(いりょう)、支出(ししゅつ)、説明(せつめい)、新製品(しんせいひん)、銀行(ぎんこう)、現金(げんきん)、自動(じどう)

P.4

技術(ぎじゅつ)、革新(かくしん)、水準(すいじゅん)、年々(ねんねん)、雇用(こよう)、失業(しつぎょう)、民間(みんかん)、部門(ぶもん)、相互(そうご)、作用(さよう)、解決(かいけつ)、価格(かかく)、上昇(じょうしょう)、利益(りえき)、関心(かんしん)、中心(ちゅうしん)、下落(げらく)、方法(ほうほう)、織物(おりもの)、手職機(てしょくき)、近代(きんだい)、最新式(さいしんしき)、一人(ひとり)、以前(いぜん)、監視(かんし)、一般的(いつぱんてき)、費用(ひよう)、必要(ひつよう)、労働力(ろうどうりょく)、進歩(しんぽ)、集約(しゅうやく)、最近(さいきん)、規制(きせい)、法律(ほうりつ)、制定(せいてい)、顧客(こきやく)、高所得(こうしょとく)、一步(いっぽ)、後退(こうたい)、差(さ)、運(うん)、教育(きょういく)、経験(けいけん)、勤勉(きんべん)、十分(じゅうぶん)、再分配(さいぶんぱい)、計画(けいかく)、税金(ぜいきん)、介する(かいする)

P.5

過程(かてい)、中央集権(ちゅうおうしゅうけん)、事実上(じじつじょう)、活動(かつど

う)、側面(そくめん)、責任(せきにん)、当局(とうきょく)、官僚(かんりょう)、指令(しれい)、自由(じゆう)、交換(こうかん)、存在(そんざい)、混合(こんごう)、公的(こうてき)、意思(いし)、限度内(げんどない)、検討(けんとう)、程度(ていど)、私的(してき)、課題(かだい)、国民(こくみん)、自動車(じどうしゃ)、購入(こうにゅう)、大部分(だいふぶん)、輸入(ゆにゅう)、排出(はいしゅつ)、汚染物質(おせんぶつしつ)、燃費(ねんひ)、安全性(あんぜんせい)、行動(こうどう)、関連(かんれん)、雇用主(こようぬし)、自分自身(じぶんじしん)、独立(どくりつ)、個々(ここの)、利害(りがい)、対立(たいりつ)、当然(とうぜん)、特有(とくゆう)、主義(しゅぎ)、体制(たいせい)、本来(ほんらい)、姿(すがた)、国家(こっか)、公共団体(こうきょうだんたい)、拡大(かくだい)、併存(へいぞん)、歴史(れきし)、興隆期(こうりゅうき)、介入(かいにゅう)、最小限(さいしょうげん)

P. 6

今日(こんにち)、安定(あんてい)、成長(せいちょう)、向上(こうじょう)、全面(ぜんめん)、責任(せきにん)、下(もと)、追求(ついきゅう)、達成(たっせい)、万人(まんにん)、幸福(こうふく)、修正(しゅうせい)

注釈(ちゅうしゃく)

P. 3 選択(せんたく) 行う(おこなう) 用い方(もちいかた) 役割(やくわり) 演じる(えんじる) 自分(じぶん) 言葉(ことば) 大金持ち(おおかねもち) 費やす(ついやす) あてはまる 鍛冶屋(かじや) 取って代わる(とってかわる) 役人(やくにん) 互いに(たがいに) 支払い機(しはらいき) サービス	选择。 进行。 使用方法。 角色;作用。 扮演。 自己。 语言;词语。 大款。 耗费。 适用;合适。 铁匠。 取而代之。 官吏;官员。 互相;相互。 取款机。 服务。
--	---

P.4

引き起こす(ひきおこす)

見過ごす(みすごす)

財(ざい)

果たす(はたす)

布地(ぬのじ)

コンピュータ

ヘンリー・フォード

流れ作業(ながれさぎょう)

メーカー

ロボット

アメリカ

手助け(てたすけ)

代わり合う(かわりあう)

及ぼす(およぼす)

賃金(ちんぎん)

相続(そうぞく)

貯蓄(ちょちく)

介する(かいする)

P.5

対極(たいきょく)

混在(こんざい)

適切(てきせつ)

に応じて(におうじて)

指摘(してき)

営む(いとなむ)

安価(あんか)

アダム・スミス

P.6

負う(おう)

確保(かくほ)

試み(こころみ)

引起。

视而不见。

财富;货物;商品。

完成;起着……(作用)。

布料;衣料。

计算机。

亨利·福特(人名)。

流水作业。

厂商;制造商。

机器人。

美国。

帮助;帮忙。

轮流;轮换。

波及;使受到。

工资。

继承。

储蓄。

通过……作媒介。

相反的一极(点)。

搀杂;混合;混杂。

恰当;适当。

适应;按照。

指出。

经营;办;做。

廉价;便宜。

亚当·斯密(人名)。

担负;负;背。

确保。

尝试;试验。